

## 2019年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿 (中期的目標)	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	職員間での情報共有を密にして、配慮を要する児童への支援にあたり、全職員で肯定的な声かけを継続したりすることで、落ち着いた学校生活を送ることができた。長期欠席傾向児童も改善の方向にある。授業のUD化を目指して、研究主任を中心に学習課題と振り返りに着目した授業改善をさらに図っていく。			
	今年度の重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策	
	1	支え合う学級づくり	肯定的な声かけを全職員と児童会で取り組み、生活指導の面で改善があった。肯定的な声かけを継続し、個の違いや良さを認め合う学級をめざす。	A	学級や姉妹学級、縦割り活動の中に、個の違いや良さを認め合いながら、力を合わせて課題解決する活動場面を設定する。
	2	学び合う授業づくり	職員研修を取り入れながら授業改善に取り組んだ。児童が自分事として考えるための工夫を校内研究で追究した。	B	教材研究と学習課題を大事に考え、ペアやグループ、全体に自分の考えや思いを伝えたい授業づくりに取り組む。
3	高め合う活動づくり	個に応じたためあてを設定することで、粘り強く取り組むことへの支援や声かけができた。地域講師から学ぶ機会がもてた。	B	地域講師や周りの人への感謝の気持ちと自分の変化や成長につながる振り返りをすすめる。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	児童会中心にあいさつ・廊下歩行・靴の履き方の呼びかけをして改善が見られた。	A	肯定的な声かけを、生徒指導係と児童会、全職員が共通認識のもと取り組む。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めることができたか。	場と時を捉えて、違いや良さを認め合う指導と初期対応を丁寧に行った。課題解決の活動場面を増やしていきたい。	B	なかよし月間に、よりよい関係造りを考える場を発達段階に応じて行う。教科の学習や総合的な学習の中に、課題解決する活動場面を設定する。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U 検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	Q-U 研修を行い、全職員で児童理解を進めた。さらに、個別の指導計画を有効に使用していく。	B	チームで個に応じた支援にあたるために、特コや生徒指導係を中心に支援の方向を共通理解する場を持ち、支援にあたる。
	学び合う授業	学習の約束・きまりを守り、深める学習	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	学級、全校の場で感想を伝え合う場面を大事にしてきた。体の姿勢が崩れやすい児童がいる。	B	全校で体幹を鍛える運動に継続して取り組み、学習に向かう姿勢の向上を図る。
		自主的・計画的に取り組む家庭学習	「紡ぐ」を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	「紡ぐ」を活用して家庭学習の定着を図った。ドリルで復習や漢字の自主練習に取り組んだ。	A	自主学習の支援として、活用的な学習を職員間で紹介し合い学ぶ場を持つ。

	高め合う活動	「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	授業改善として、児童の問いからうまれる本時のねらいについての職員研修を行った。	B	ねらいに沿った学習の見返し（振り返り）について、職員研修を行う。
		個の目標に向かって取り組む	体育的行事・音楽活動の中で、個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	個のめあてに向かって取り組むことを大切にし、校長講話、行事の事前指導で伝えてきた。	A	自分の成長を振り返るために、全職員で児童を見取り、成長や頑張った姿を具体の場で伝えていく。
		異学年との交流	互いの成長を感じ合う場として縦割り清掃や姉妹学級交流を計画し、児童が主体となって活動できるように指導・支援することができたか。	縦割り班や姉妹学級での交流活動を通して、低学年を思いやる高学年の姿が多く見られた。	A	交流のめあてを明確にし、互いの良さや頑張りが見えやすいようにし、良さを認め合う場になるようにする。
		地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	クラブ、栽培活動において、地域講師から多くのことを学ぶことができた。	B	お世話になった方々への感謝の気持ちを児童が主体的に伝える場をつくる。キャリア教育の視点からも学んだことを振り返る。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	学校での取り組みや協力のお便りやお便りやHPで発信することができた。	A	不審者情報や安全に係わる情報をタイムリーに発信していく。
		PTA や地域の方々との連携	PTA や地域の方々との連携を十分に行うことができたか。	安全連携会議で地域、PTA と情報を共有することができた。自治会との情報共有が増えた。	B	安全面について、引き続き地域との連携を密にとっていく。負担軽減を図りながら、学校教育充実の方向をPTAと考える。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった